

1 の 1 生活科学学習指導案

場 所 1 の 1 教室

指導者 和田 紀子

単元名 あきの おもちゃを つくろう

(1) めざすコミュニケーションの姿

作ったもののよさや工夫、自分の思いを友達に話そうとする姿

(2) 本時のねらい

園児に喜んでもらえるように、工夫したところや見つけたよさ、改良点を友達に伝えることができる。
(思考力、判断力、表現力等)

(3) 学習の展開

時	学習のながれ	・手だて ◎評価 ★めざすコミュニケーションの姿にせまるための手だて
2	1. 前時までをふり返る ・お店にぴったりのものを作ったよ。 ・まだ途中なんだけどな。	・安心して紹介できるように、まだ作る時間があることや今の段階での紹介であることを確認する。
24	くおみせのおすすめやいいところ、パワーアップできそうなところをはなそう パート1> 2. お店紹介をし、互いに思いを伝える ○お店のおすすめを紹介しましょう。よさやアドバイスをを見つけながら聞きましょう。 ・どんぐりに色を塗って、飾りました。 ・秋のものをいっぱい使いました。 ・色を塗っていてかわいいなと思いました。 ・いろいろな種類があって面白いと思いました。 ・もっと作ったほうがいいと思います。	・自分の思いを伝える時間を保証できるように、2回に分けて行う。 ★お店のおすすめが伝わるように、キーワードの紙やテレビ等を使って言葉を補う。 ★もっと年長さんが喜んでくれるように、工夫やアドバイスを話したり書いたりして伝える場を設ける。
10	3. 実物の近くでよく見たり、遊んだりする ○気になるお店に行って、もっとよく見ましょう。 ・こんなふうにとめてあるのか。 ・触ったら取れそうだよ。	・聞いただけでは曖昧だったことが分かるように、そばで見たり実際に触ったりし、思いを伝える。
	お店のおすすめや頑張ったこと、よさやアドバイスが伝えられたよ。	◎おすすめや頑張り、よさやアドバイス等の思いを書いたり話したりして伝えようとする。 (発言・付箋)
4	4. 本時の学習をふり返る ・いいところを言ってもらえて、嬉しかった。 ・次の紹介が楽しみだな。	

【実践のウリ】

「年長さんをびっくりさせたい！」と秋の自然物でいろいろな品物を作ってお店屋さんをすることになった。少しずつコロナも落ち着き、グループ活動も取り組み始めたので、楽しみながら力を合わせて、自分たちのお店にぴったりの品物を作ろうとしていた。でも、思うように作れなかったり、自分たちで満足してしまい年長さんのことを意識していなかったりしていた。そんな時に行った自分のお店紹介、いいところ・アドバイス見つけの活動である。

【実践例】

年長さんが「喜ぶ」「びっくりする」「来たくなる」お店にしようと、グループの友達とお店のイメージを共有し試行錯誤しながらお店にぴったりになるように品物を作っていた。しかし、「もっとよくしたいけれど、どうしたらいいのか分からない。」と言うつぶやきがあった。そのため、自分たちのお店のおすすめポイントを伝え、友達のお店が年長さんにとってどうなのか、品物のよさやもっとよくなるにはどうしたらよいかなど、話したり聞いたりした。友達の意見を聞くことで、よりよいものが作ることができると考え、今の段階でのお店のおすすめとして紹介をした。

短い言葉でおすすめポイントを書き、実物を見せながら紹介した。よさや工夫をよく見たい時は、その場で撮影した動画や写真をテレビに映すことで、どの子供にも分かるようにした。聞き手は、話したり、話すことができなかったことを付箋に書いたりすることで、全員が思いを伝えることができるようにした。また、実際に遊んだり触ったりし、実物から気付くことができる時間を設けた。

この活動後に作る時間があることを知っているので、「〇〇するつもりです。」と紹介したり、「もっと〇〇したらいい。」「〇〇がよかったから、もっと作ったらいいい。」と前向きな意見を言ったりしていた。

【成果】

自分のお店を紹介したことで、作った品物を客観的に見ることができた。また、友達のお店の品物を見ることで、友達の店のよさや自分の店でも工夫できそうなところに気付くことができた。テレビで見たり付箋に書いたりする活動を取り入れたことで、どの子供も参加することができた。

【課題】

これまでにグループでの発表をする経験が少ない上に、紹介の練習をする時間が少なかったため、戸惑っている姿が見られた。また、作った品物ではなく、発表の仕方へのアドバイスが多くなってしまった。

【資料】

資料1 お店のおすすめを発表する姿



資料2 その場で撮影し説明する姿

2の3 生活科学習指導案

場 所 2の3教室

指導者 早川 佳奈

単元名 動くおもちゃ研究所

(1) めざすコミュニケーションの姿

くりかえし対象とかかわる中や友だちと遊ぶ中で、気付いたことを相手に話そうとする姿
自分のおもちゃとの共通点や相違点を理解して聞こうとする姿

(2) 本時のねらい

みんなで同じ簡単な動くおもちゃを作り、遊ぶ中で、おもちゃを「もっとパワーアップさせたい」という思いをもち、試したり工夫を重ねたりすることができる。

(思考力、判断力、表現力等)

(3) 学習の展開

時	学習のながれ	・手だて ◎評価 ★めざすコミュニケーションの姿にせまるための手だて
3	1. 本時の課題をつかむ ・ぴよんと高く跳ねるのを作りたいな。 ・早くひっくり返るのがいいな。 ＜スーパーピョンピョンガエルを作ろう＞	・教師が作ったピョンピョンガエルを見せ、「作ってみたい」という意欲をもたせる。
15	2. みんなでピョンピョンガエルを作って遊ぶ ○ピョンピョンガエルを作ろう ・切り込みはどのくらいかな。 ・輪ゴムのかけ方がちがうのかな。	・みんなが作れるように、作り方や見本を提示するが、切り込みや輪ゴムのかけ方などはそれぞれ気付けるように詳しく言わないようにする。
15	3. 遊んで気付いたことを交流し合い、パワーアップ活動をする ○気が付いたことや困ったことはあるかな。 ・全然跳ばないけど、どうしてだろう。 ・○○さんのが、とても高く跳んでいたよ。 ○スーパーピョンピョンガエルにできそうかな。 ・切り込みの場所をかえたら跳んだよ。 ・ゴムを2個にしたら、高く飛び跳ねたよ。 材料や作り方を工夫すると、動き方が変わって良くなったよ。今度は自分の動くおもちゃを作って遊びたいな。	★グループで作って遊ばせ、工夫したことなどを友達同士で教え合うようにする。 ・遊びの中で、「あまり跳ばないな。」「もっと高くとばすにはどうすればいいかな。」という子供がいたら、交流の場で取り上げ全体の課題にする。 ◎みんなで同じ簡単な動くおもちゃを作り、遊ぶ中で、おもちゃを「もっとパワーアップさせたい」という思いをもち、試したり工夫を重ねたりしている。 (行動観察・発言・ワークシート)
7	4. 本時の学習をふり返る ・友達と競争したら楽しかったな。 ・工夫したら良く跳ぶようになったよ。	★本時の学習のふりかえりを書かせることで、自分の気づきを自覚させ、友達との共通点や相違点をはっきりさせる。

【実践のウリ】

みんなでピョンピョンガエルを作ると聞いて「やったー！」「楽しそう！」「早く作りたい！」と、みんなはワクワク。みんなで同じ簡単な動くおもちゃを作る活動である。

同じおもちゃだから、分からなかったら聞けばいい。同じだけど、比べると違うからなんでかなと思う。みんなで「比べる」「くり返す」「試す」をして、理想のピョンピョンガエルを目指していく。

【実践例】

クラスみんなで、ゴムの力で動くおもちゃの「ピョンピョンガエル」を作った。みんなが作れるように、作り方や見本は提示したが、切り込みや輪ゴムのかけ方などは、子供が工夫をしながら作れるようにした。制作活動はグループでも良いとし、作ることに困っている子供は、友達と一緒にしたり、他の友達からアドバイスをもらってやってみたりと活動することができた。

しかし、活動の途中で「全然、跳ばないなあ。」と困っている子供がいたので、みんなに聞いてみることにした。みんなは良く見ており、「こうしたら跳ぶよ。」と的確なアドバイスをしてくれた。その他にも、作ったり遊んだりして気付いたことや工夫も交流し、自分のピョンピョンガエルと同じところや違うところを比べていた。

自分にはなかった工夫にもふれ、新たな視点を増やすことができ、その後「もうちょっとパワーアップしたい。」と、さらにくりかえし試す姿があった。いろいろ試して「ゴムをばってんにしたらすごく跳んだ！」「なんか跳ばなくなってしまった。ゴムを2本にしたら牛乳パックが曲がってしまったよ。」と、その原因も考えてふり返っていた。

【成果】

グループでも良いとしたので、分からないことや工夫したことを友達同士で教え合う姿が見られた。自分のピョンピョンガエルが跳ぶための工夫をふりかえりて書くことで、良かったことや悪かったこと、友達と比べたことを自覚することができた。

【課題】

「〇〇ピョンピョンガエルを作ろう」という自分の思いをもち活動したのだが、個々で目的は違うので、自分の目的には向かっているけれど、グループの中の違う目的の友達へのアドバイスはしにくそうだった。時間が足りず、試す時間が短かったため、出てきた工夫の数は少なかった。もっとたくさんの工夫が出れば、さらに比べる、くり返す、試すの活動が盛んになったのではないかなと思う。

【資料】



資料1 友達に教え合う姿



資料2 跳ばないことを全体で共有する場